

講演会型＋在宅取組型（こども園）



園名	海津市立石津認定こども園
実施日時	平成30年12月22日（土）～26日（水）【冬休み期間】
会場	石津認定こども園 遊戯室
参加人数	3歳～5歳児親子（園児40名、保護者38名）
学習課題（分野）	あったかい絆宣言「あったかいきずないっぱいカード」（約束運動）
運営者の願い	市は「あたりまえのことができる家庭教育」と「あったかい絆宣言」運動を推進している。このきずなカードを使って、子供とのふれあいの大切さを再認識し、より絆を深める取り組みにしてもらいたい。

学習の内容

<あったかいきずないっぱいカードの取り組みにあたり、子育て講話を実施>

海津市で取り組む「あったかい絆宣言」運動がなぜ始まったのか、現在の海津市の子供達を取り巻く現状や小・中学生スクールサミットの様子、また家庭環境等について教育委員会担当者の話を聞き、今回の取組のねらいを理解する。



講話の様子

<あったかいきずないっぱいカードの取り組み方法>

【在宅取組カード】 冬休み始まってすぐの5日間実施。項目は4つ。子供達はできたら色を塗る。

- ①あいさつ：家族みんなが進んであいさつしましょう。
- ②家族との会話：おうちの人にお話をする大人は目線を合わせ、子供の話に耳を傾ける。
- ③テレビやゲームの時間：テレビやゲームをする時間を親子で話し合っ決めてみましょう。
- ④約束：家族で話し合っ約束を決めましょう。できたら褒めてあげましょう。

【大切にしてもらうこと】

「できた」「できなかった」という結果にこだわるのではなく、できたらその時にしっかり褒めてあげる。できなかった時は、声かけをしたり、なぜできなかったのか話を聞いてあげたりして、子供の様子をしっかりと見る。

【カードの提出】

取組カードは冬休み後に園に提出。まとめの通信とともに返却。

<提出カードより>

- ・自分で名前を書いたり、○の中にきれいに色が塗られている様子から、親が傍にいて見守っていることが分かる。
- ・約束や時間を具体的に書いてあり、分かりやすい。
- ・「おうちのひとからおこさんへのご褒め」がどれも温かく「あったかいきずな」がいっぱいあった。（ピックアップ）

まいにち、あいさつやえんであったことをおはなししてくれて、おかあさんはうれしかったです。テレビのじかんもきちんとまもれて～・・・

まいにち、あさおきて「ママおはよう」といってくれて、きもちよかったです。～やくそくもちゃんとまもれて、へやがきれいになりましたよ。

<保護者の取り組みの感想より>

当たり前なのですが、振り返ってみると子供の話を目線を合わせて聞けていないなど親として反省することがありました。取組を通して、子供と目線を合わせたり、褒めてあげる機会が増えあったかい気持ちになりました。これからも続けていき、どんな時も親に話そうと思える家庭環境を作れるように努めたいと思いました。

親子で行う「あったかいきずないっぱいカード」(カード裏面)ねらいの説明

「工夫点と成果」
園行事（クリスマス会）の後に講話の時間を設定したので、ほぼ全員の保護者の参加があった。
また、初めての在宅取組ということもあり、ねらいや取組方法を保護者に伝え、直後の実施であったため効果的であった。

「在宅取組の広がり」
あったかいきずなカード対象は3歳～5歳児親子であるが、未満児親子は同期間に「親子で絵本ふれあいタイム」として、「ひざ読」を実施し、親子の愛情を確かめてもらう取組をした。取組カードには読んだ絵本のタイトルを記入し提出してもらった。

「次の在宅取組へ」
「役員の感想より」
親自身、挨拶や声かけができていないことに気付いた方もいて意識して取り組んでもらえた。取組が終わっても続けたいという声が多く聞かれた。
子供が大きくなるにつれだんだん一人での行動も増えてくる。何気ない声かけや話を聞くことは大切だと、この取組を通して感じた。